

民報 ゆうばり

第28回党大会に他党からエール!

公正な富の再分配と公正な賃金の実現を

1月25日、翔団地において、くまがい桂子市議と党後援会メンバーが街頭宣伝と署名活動を行いました。くまがい市議の訴えの概要をお伝えします。

カジノ疑惑

カジノ疑惑が深刻です。自民党や維新の議員が、多額のワイロを受け取っていました。

北海道選出の自民党議員2人も疑惑に含まれています。海外カジノ企業だけでなく、夕張にも縁の深いルスツリゾートの加森観光の会長も起訴されました。彼らが道内にカジノを持ち込む狙いだったことは明らかです。

根本には「カジノは成長戦略」とする安倍首相の責任があります。利権にまみれたカジノについて、今も「準備を進める」といいます。消費税を上げ、その上国民を不幸にする

カジノを進めるなど、とんでもありません。日本共産党はカジノ汚職事件を絶対に許しません。

20日から始まった通常国会では、野党各党派は「追及本部」を立ち上げ、カジノ禁止法案を提出します。北海道の鈴木知事もカジノに未練を残



市民と野党連合で汚れた政治にさよならを 宮脇 達

桜・カジノ・単一民族? 国民が大切にされる国へ

「桜を見る会」の問題も、ますます深刻になっていきます。安倍首相が大量の支持者を税金でもてなしてきた、事実上の買収行為です。悪質な詐欺業者ジャパンライフの会長さえも「首相杯」で

さらに、国会に提出した名簿で、担当の部局の名前を加工して消していたという重大問題が、新たに発覚しました。あからさまな「文書改ざん」であり、国民を欺く極めて悪質な仕業です。どれもこれも、首

戦前のナチス・ドイツとそっくりの、先住民や多様な人々を排除するヘイトスピーチです。安倍首相ともども、政治家としての資格はありません。こんな安倍政治を、これ以上続けさせていいのでしょうか。

国民の平野氏は、日本共産党の「立憲主義を回復しよう、格差を解消しよう、多様性を認め合おう」という三つの柱に感動したと力を込めました。



国民の平野氏は、日本共産党の「立憲主義を回復しよう、格差を解消しよう、多様性を認め合おう」という三つの柱に感動したと力を込めました。

単一民族?

麻生副総理は、日本が単一民族で一つの王朝が続いてきたと言いつつ、

中で、共産党との距離がグンと縮まった。今後一体感のある協力をすれば、政権が



立憲民 主党の安住氏はあ



の嘉田代 碧水会 表など、 他会派や

日本共産党は徹底した市民と野党の共闘



の吉川氏 は、野党 統一候補



「終わり」が見えてきた 倉田 新 政権

憲法・格差・多様性

憲法が守られ、暮らしの格差をなくし、多様性を尊重する政治へ、野党各党派は一致しています。大企業やアメリカにへつらうのではなく、一人ひとりの国民こそ大切にされる、希望の持てる政治へ、力を合わせていこうではありませんか。

新年「旗びらき」開催 夕張労働組合総連合

1月26日(日)、はまなす会館で、夕張労働組合の「新年旗びらき・春闘学習会」が開催されました。

筒井勇治夕張労働議長の挨拶に続き、来賓としてくまがい桂子市議が連帯の挨拶をしました。

『最低賃金の全国一律制度が地域をかえる』というテーマで、夕張労働・熊谷泰昌事務局長が提起し、「この制度が創設されると、地域経済の発展の可能性や地域に若者が戻ってくる可能性が高まります。制度導入には、国が中小企業や零細個人事業主に対する手厚い支援制度の導入が不可欠」と参加者に訴えました。

質疑・討論の場では、多くの方から意見や感想が述べられました。地域経済を活性化するには、最低賃金はどこに住ん



くずさんの 夕張歴史散歩 (128)

明治維新 42 / 朝鮮植民地支配 第2次日韓協約(保護条約)

もともと韓国を日本の保護国(事実上の植民地化)にすることは、日露戦争の目的の一つであり、一九〇一年(明治34)六月、桂太郎内閣組閣にあたり4本柱の政綱の中に「韓国を保護国となす目的を達成すること」とあります。すでにことはい九〇一年から始まっていたのです。ようやく日露戦争が終わってすぐ一九〇五年(明治38)十一月、韓国に対し強引に「保護条約」締結を迫ります。

イエスカノーか

十一月十五日、伊藤博文は明治天皇の親書をもって韓国皇帝高宗に迫ります。この保護条約案は、もはや変更のできない日本の確定案である。これを承諾するも拒むも勝手なり。もし拒むときには「帝國日本政府はすでに決心するところあり」と脅し、三日以内にイエスの回答を求めます。すでに十月二十七日の閣議決定(同日天皇裁可)は、「韓国が同意しないときは、一方的に保護国にすることを通告する」としているのです。

初めからノーはない問題を提起し、イエスと言わせる。これではまともな二国間条約とは言えません。明治政府による「保護条約」の押しつけは、問答無用の脅迫でした。

条約交渉に先立って

さらに、韓国政府の閣議での干渉は驚くものがあります。交渉前には周到な打ち合わせをしています。途中で大臣が逃げ出さないよう憲兵を護衛の名目で配置。また邸重(国の印)の保持する者・自殺者が出ないように見張る*などを手配します。

* 林権助駐韓公使「我が七十年を語る」 日本の侵略と「歴史教科書」から



畠山和也「かけある記」
前衆議院議員
畠山 和也

政治を変えて学校に余裕を

各地の党と後援会による「新春のつどい」へ足を運ぶと、思わぬ出会いがあります。教員として勤めていた苦小牧では「先生にはお世話になりました」という方が。教え子のお母さんでした。懐かしく教え子の顔を思い出しました。

私がいたころの学校には余裕があったように思えます。しかし今や、過剰なまでの授業時数の確保、初任者や免許更新のための研修、部活動や学力テスト対策、毎日おこなう授業の準備などのほか、評価制度の導入によって先生たちが安心して語り合えない状況さえも生まれています。

昨年、成立させられた「一年単位の變形労働時間制」は、この長時間過密労働を固定化。議会しかねません。ある高校の校長先生は「学校に閑散期などありません。夏休みも進学講習や、就職に向けて履歴書作成などを教えるため、担任は朝から出勤しています」と話されました。導入には無理があるのです。

共同の輪が広がっています。この問題を通じて、北海道教職員組合とは初めての懇談をおこないました。率直な意見交換もあり、道での共同も話題になりました。豊かな教育をめざす点では根っこで同じです。安倍政権を変えて学校に余裕と笑顔を！ そのための共同が当たり前となるように力を尽くしていきたい。

今年8日、札幌教育文化会館で「教職員の變形労働時間制を考える集い」を午後一時半からおこないます。畑野君枝衆議院議員が報告します。ぜひ多くの方に、お越しいただきたいです。